



地番一一村丘竜野長
男經田保久 兼人編
年青丘龍 所行發
雄貞平下 者表代
七三二町田飯縣野長
所刷印社興猶 所刷印
六三二町飯縣野長
雄義下松 人刷印

村に於ける分拆觀念の統一

中田美穂

現代は科學の世紀であつて、科學の基礎は分拆から出發する。だから現代人は科學的に事物の對照を分拆して、各々にそのもの、其の事にたいして定義付けなくては納得できない傾向を有してゐる。小さな村治上の問題でも右の傾向は明らかに見取される。即ち一事件、一問題にたいして先づ自己を中心として分拆批判をなし、

失へる一名物を男を惜しむ

高島和男

前章において私の稱した分拆觀念を統一して終始村のために公僕として後半生を村に寄與した二人の典型的人物と

無智なる組合員へ

高島和男

秋：秋は黄色に染りたる田舎に、秋は長き一年間の勞苦に耐へたる貴き汗の結晶であるが、秋蠶取後の農家に於いては未ださびしいかな副業的なものにして現金収入の道はまつたく絶へ、それに引きかへ支出の道は無限に開け、五月までの生活費はもとより、打ち續いたる不況に積り積りし借金にたいする利息拂ひに、無盡金拂ひに又諸物價の高調によりて昨年よりは一層苦境に陥ることは明かなる事實であつて、秋蠶

生産組合の理事

果して生きつゝありや

先般龍四郎問題として記憶も新しい組合長退任命令が縣當局より發せられた際、及びその後、組合理事者達の或は役員に在るに疑はざるを得なかつた。一、理事と監事の職務と權利の限界が忘れられてゐた。二、眞正當局の命令ならば言従亦止むを得ざるも、巷間の傳ふるところは理事の

日本一は組合員に在り

高島和男

製絲組合が不幸に遭遇しつゝ、ある際に優良たる事日本一に電氣組合に折紙をつけるあたりの缺陷を補ふために生まれたる社會改良主義であり、聯合の組織によりて自己生産したる日用品は中間搾取の手數を省いて直接消費者に安價で配給し、組合員の生産物は共同加工し、販賣へと統制的なる機關であり、農民は一重にこの主義を死守するのが自力更生の根本策である。ましてや製絲組合(販賣利用組合)においては農村第一の經濟機關であり、現在流行の政黨的勢力の擴張の如き一部分の野心家の策動によりても如何ほど我々の日常生活に影響するに及ぶ位は無智なる一般組合員に於いてさへも知り得るはずであると思ふ。

非常時を誤びうせぬ女子の道

後援なき組合は發展しない

非常時に處するの途は各人の境遇と職業により、已が機能をも發揮することが必要であるが、兵隊は銃を執り、百姓は農産物の生産に勵むべし、婦人は家庭を守り子女を育て、女子指導機關が誤れる流行と役割が反對化し、女子が銃を執り、百姓が揮布を洗滌してゐたら随分ユーモアどころか、國家の悲劇となるであらう。

後援なき組合は發展しない

高島和男

産組運動あるところに必ず反産組運動を生ずるは理の當然で、大なる資本と政治的背景を保持する商人の反産組運動の強力率固たることも推憶できる。系統機關としての産組青年團の結成はこゝ角として、村の産組運動のために組合に直接發言權、決定權なき青年の

の光榮であり、業績は冠絶してゐることモチだが、それだからといつて漫心しちやいけぬ。それは亦依つて来る深き原因がある。一、組合員が組合を理解してゐる故に料金の滞納や故意の工作物損傷、亦は不正行為を絶體しない。二、組合員は聯合幹部を信頼してゐる、故に當局は充分の總會における議事も多くは八百長問答で提案通りに決定する。

雙刀劍

爾がとれた。米がされた。世は豊年だも、今秋の村社祭典、煙火の打上、物凄し。

果して村々は、豊か、どうか？。少しばかりの繭や米の増収ぢや、浮れるほど、景氣はよくなるからうに。

一夜に、數百金を、冷たい秋の夜空に消す。これが所謂空景氣。非常時日本の嵐の前、まづ立つものは一體何か

ドイツ、國際聯盟と軍縮會議に、サヨナラ。國際政局嵐へ嵐へと進展。

愛郷熱頭橋氏、日本の興亡は、農村の如何を以て基となすと。法廷で叫ぶ。

神の怒か 地の聲か そなたならぬ響あり 三上中尉は、かく歌ひ、叫ぶ。人よ!! 五・一五の烈火、革新の炎を何ぞ見る。

生絲組合問題、浪波、今靜まりて、常道の第一歩は、健全。幸を喜ぶと共に、前組令長の絶大なる力に、感謝と熱淚あり。

合等の産組發達途上の障害を十分に研究批判し、組合内部におけるが如き策謀家の抱けるがごとく非人道心は一掃根絶し、組合幹部の組合で無き自己の組合であることを認識

も速かに結成されることを希望する。 聲明書發表の、村青の行動を喜ぶ。かくしてこそ、骨ある村青、然るに、認識不足の聲明書とは何ぞ。 村の組合と、組合員の間で作られた聲明書。縣産組當局の爲に書くものにあらず。つまり、俺達の組合は、俺達のもの故に。 青年會の運動會、振はず。その原因をさぐつて、對策を講ずべし。道はいくらもあり然し反競技會偏重も排したは今年中の収穫。 三ヶ村青年研究會、なまこの如し。青年運動も、地におちたるか？。 龍丘中央線、失業救濟工事、救濟なぞの噂を立てぬやう、失業工事をしくやつてもらひたい。 來月三日の體育デー、全村!! 擧げて、しつかり、健康な龍丘の姿を、輝かせ輝かせ!!

原稿募集

次號締切 拾壹月十日 宛先 青年會處女會編纂部 員へ

冬物豊富

時又港

吉田屋胖物店

シャツ メリヤス 足袋 胖物 一切

生糸組合

電氣組合

視察の記

吾等の組合は如何に活躍しつゝあるか
紹介ご自己勉強の爲にみる

降りも降るドシャ降りの日、十二日午後一時、雨
△電所を三時すぎまで見學、四時より生産を見學す
△只私等が知るばかりでなく、村一般に紹介するつ
△もりである。如何ほどでも御参考になれば喜ぶと
△するところである。發電所の方は加藤氏、洲原
△氏、生産の方では今村氏、林氏、下平邦氏その他
△従業員諸君の深切に案内して下さつたことを深く
△紙上にて御禮申し上げます。

生糸組合の巻

久米川發電所の視察を終へて
雨にぬれる雨の山腹と稲の
穂波をながめながら久米川に
添つて歸途についた時は午後
三時少し過ぎ。雨にぬれな
がらも生糸組合を考へて道な
いで生糸組合について、時が
すでに四時となつてゐた、事
務所に一同少憩の後、帳簿を
前に何か計算中の今村主事が
多忙の時間をさいて案内して
下さる。工場外の廊下で立つ
た時機械の音と湯氣と刷しい
梓の廻轉とを一度に見て活潑
な空氣と急がしい労働のリズ
ムに包まれる。

チエンと繭の

行進曲

三田式改良煮繭
機の前立つ

繭を量つて金網の四角な容器
に入れる人とそれをそばから
煮繭機へ入れてやる人と更に
西側に一人煮繭済の繭を容器
から出して一桶々々へ運ぶ人
とこれが常に機械につき切り
の要員である、外に煮繭主任
その他湯氣の立つ繭を幾桶も
車に乗せて工場へ運ぶ娘さん
等と煮繭場は常に五、六人の
人が氣豆に立働いて忙がしそ
うである、以前はこれらを全
部が行つたのだが次第々々に

三十釜の向合い

練絲第一歩の養成工場

今村さんの説明を聞きつゝ煮
繭場の東隣ガラス戸一枚中の
養成工場に入る。南側が二年
目、北側が養成、大きなスリ
輪の廻轉の中に小梓の刷しい
廻轉。目下白十四中の練絲
中、一本に五位づゝの繭が釜
の中でクルクル煮立つてゐ
る、五條の絲が五つの梓に巻
かれてゆく、目にも見えない
早さ、手の動きが一齊で美し

此所は更に廻轉のうづ巻

斯して次第に出来る生糸

見を法製のソビキ
げ上賣のそ
圓萬一收年

小梓から大梓にまき取られる
生絲の微妙な飛躍。一人で多
くの梓を受持つて間を飛び廻
つて働く目まぐるしい空氣。
大梓全部で一七四挺、一人の
受持つ十四乃至十五挺、刷し
廻轉に白い幾條かの線をな
してゐる大梓工場、大梓工場
の一隅に陣取るセリブレン場
の白い紫が、つた光線に照ら
れて探照灯を受けてゐる、頭
の種のこの開門、白つぽい光
線は思ひなしか不氣味に顔を
照す。百燭光三燈。丁度
か、つてゐた糸を説明して八
十一點だと聞かされる、或る

静然たる活動

第一工場百八十人
緊張充ちる操絲戦

中へ入れて水分をこつて了ふ
キピンとは御承知のごとく所
謂手屑の事。賣價は九貫五百
匁乃至十貫目百匁、本年七
月以降賣上高が七八千圓。こ
のキピンが一日に三貫五百匁
は出来て本糸の約一割はこれ
になるのである

生糸は商品として
市場へ粧へて



飯田江戶町 電話七〇一

點燈下の見學

働きたる彼女等の時間

工場内の空氣もなごむ

夕食後は中帳場に案内されて
今村さんから帳簿を開いて記
帳上における女工さん一人づ
つての日の操絲上の結
果を如何に記してゆくかを見
聞する。一人一日の操絲
出来上つて行く帳面のその一
頁毎に記される細密な成績
を知る。愛友會文庫の名を聞
いてゐたので一寸のぞく。購
買部も一つの世帯らしい。一
羽仁もと子、集が十二冊がす
ぐ目につく、その他「社會秩
序の信仰」「婦人手藝全集」等

乾燥場貯繭庫を一廻り

乾燥場へ行き二階から下へ据
ため組合員のためと計つた
付られた二臺の大乾燥機の
前に立つ。一臺は五分乾燥に
使用し、一臺は完全乾燥に使
用する二臺。この工費が二萬
圓を要したと。棧の内部を従
横にめぐりて引かれてゐる
パイプの長さが一萬二千尺、
一方富士山と競争が出来ると
能力は一日に七八百貫の乾燥
をなし得る。

事務所に

かゝつて

組合見學を

終へて

今村主事の

意見

組合經營から今秋の狀態等
を伺ふ。
今秋供繭高二萬五千四百貫、
昨秋秋蠶に比して八千貫の増
加を見せられてゐる。その秋蠶
立瓦數量は
組合取扱のもの六萬二千五
百グラム、村内全部では
組合取扱外も多き故に約七
萬グラム
部員を圍んで今村さんは種々
の説明と共に語る。この度
の問題では組合員各位に種々
容易ならぬ御世話様になつた
が事現在のやうな状態に到着
して一先づ組合もかたまつた
再びこゝに留まることになつ
たについては種々事情もあり
前組合長とも同じく組合の
は第四面へ掲載す

久米川發電所見學記

經濟生活に重要な連繫を有する村の電氣機能一部を...

科學的説明を聞き、發電機の發電作用について送電の方法...

久米川發電所の經營は村における大きな利益であつた。...

木管の一部は正に朽ちんごしである。これが半永久的乃至永久的な水路を完成せしむ目的にコンクリート巻きをする...

松本兵營見學記

高島 和男 合作 後藤 兼義

第一日

青訓六ヶ村(龍丘、川路、龍江、千代、上下久堅)四年次生等五十名が自動車八臺を連れて松本兵營に長驅した。

一昨中には田も桑園もなく栗キビの稔り、見渡すかぎり秋色濃やかなる廣漠枯槎原を...

折から牙え渡りたる十四日の月が上り暗き營舎をさびしく照らす。華かなる町松本に...

第二日

月の光りも薄らぎ窓硝子の外は薄藍色に曇り盛早五時半。大自然の深き眠りを破りて...

七時半、營庭武裝整理体操の体型を變じ拾分ほど基本体操...

第三日

明ければ兵營生活第三日目。營庭日朝點呼、濟みて基本体操...

御料理 富松 電話十五番